「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

マイペンライ通信

編集・発行　アジア保育教育交流推進実行委員会
（略称：大阪マイペンライ）

２０１０年６月１日
Ｎｏ．７８
ＴＥＬ・ＦＡＸ
０７２－６４５－７７７２

５月研修事業を延期　子どもツアーも中止

タイ・バンコクの政治混乱を受けて判断

現政権に反対するタクシン元首相派のバンコク都内での抗議行動と政府側の衝突が多くの死者を出す事態となり、安全性を考慮し、「国際ボランティア貯金」寄付金の助成事業で５月の連休時期に予定していた「出前保育研修事業」を延期することとしました。この延期について、現地のシーカーアジア財団、予定していた講師の方々に了解をいただくとともに、「郵便機構」に報告しました。

研修事業は９月に延期で調整

延期判断を受け、現地財団との協議のため役員がバンコクに出向きました。協議に先立ち、研修事業で予定していた保育園などを訪問することができました。その後、財団と研修事業についての協議を行い、タイの政治状況の沈静化を前提に、第１回出前保育研修事業を２０１０年９月に実施する方向で進めることとしました。今後、現地の情勢を把握しながら、新たな実施計画を策定し「機構」に提出することとしています。

また、この情勢を受けて、７月に予定していた子どもツアーについて本年度は中止としました。

２０１０招聘研修
大阪府各地で交流がはじまります
ラオス・タイのスタッフが７月１０日に来日

今年の招聘研修は第１８回を迎え、7月１０日、ラオスから２名、タイから２名のスタッフが通訳・同行スタッフとともに来日します。

受入いただく組織と受け入れ日程は、大阪府教組は高槻市教組と貝塚市教組（いずれも１２日～１４日）、自治労大阪府本部は摂津市職と大阪市職民生支部（１４日～１６日）、部落解放同盟大阪府連は生江支部と安中支部（２０日～２２日）です。

招聘研修は7月１１日のオリエンテーションからスタートし、7月１２日から各地で交流研修が始まります。大阪の蒸し熱い季節の中での交流となることが予想されますが、皆さんよろしくお願いします。（２頁に招聘スタッフのプロフィール）

２０１０年第１８回総会ひらく

大阪マイペンライは４月２２日、ＰＬＰ会館で第１８回総会を開催し、総会には会員、団体会員組織からの参加者など約９０名の参加をいただきました。

冒頭、森代表（写真）が会を代表して「会の活動は発足以来、3 つの団体にお支えていただいているが、それにあわせて個人の方がいろいろな活動に参加いただいていることが力となっている。また、現地のＮＧＯ団体も私たちの活動を支えてくれている。今後もタイの子どもたちの顔を思い浮かべ、顔の見える交流を続けたい。」などと挨拶しました。議事では第１号議案「活動の経過と方針」が稲葉事務局長より,第２号議案「０９年度決算案と１０年度予算案」が松尾会計幹事より提案され、田村会計監事から報告された０９年度決算監査報告とともに承認されました。

方針の中では、08 年、09 年に続く１５周年記念事業の３年目の継続事業として、「国際ボランティ

ア貯金」寄付金の配分に基づく新たな研修事業の具体化を目指すことを確認しました。

また、寺内副代表から第３号議案の森代表をはじめとした「２０１０年度役員体制案について」が提案され、全体の拍手で承認されました。役員体制では新たに大西さん、寺内さんが副代表として確認されました。（議事の内容は議案書参照）

難民問題を発信し続けたい

第２部では、シャンティ国際ボランティア会（ＳＶＡ）の神崎愛子さんにお越しいただき、記念講演を受けました。講演では「『共に生き、共に学ぶ』ことができる平和（シャンティ）な社会の実現を目指す」とするＳＶＡの理念をかかげ、この理念に基づいたＳＶＡの創設から現在に至るまでの歴史を紹介し、現在の「・図書館事業・学校建設事業・奨学金事業・緊急救援」などの諸活動を説明しました。後半は、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける事業が詳しく説明されました。タイ西部のミャンマーの国境付近の山岳地帯には、ミャンマーの軍事政権の迫害から逃れたカレン族をはじめとする少数民族が暮らす９つの難民キャンプがある。１９８４年に難民が確認されて以降増え続け、２０１０年現在約１４万人がキャンプで生活している。

キャンプは難民高等弁務官事務所（ＵＮＨＣＲ）が管理運営し、多くのＮＧＯ団体が支援を行い、ＳＶＡもその一つで、図書館活動を通じて支援している。図書館建設に当たって、ＳＶＡはキャンプの住民委員会との事前調整から用地の確保、資材の調達、建設、図書館員の養成、絵本・書籍の整備などのすべての支援を行っている。図書館では本の提供だけでなく、子どもたちへの絵本の読み聞かせや人形劇の公演、民族の伝統を継承する文化活動、高齢者と子どもの交流活動などが取り組まれている。図書館での本との出会いから「難民キャンプの日々の暮らしが当たり前だと思っていた中で、世界を知ることが出来るのだと思った。」との住民の声が寄せられているとのこと。

タイ政府は長期化する難民キャンプに対して、２００５年より第三国定住プログラムを開始し、アメリカ、オーストラリア、イギリス、デンマークなどの欧米諸国が受け入れを進めているが、日本も遅ればせながら１年につき３０名の試験的な受け入れを行うことを決めた。第三国定住は今後も進むものとみられるが、キャンプのある男性の「定住してしまえば、自分はカレン人ではなくなってしまう。・・・定住は自分のアイデンティティーを捨てることだと思う。・・・祖国に帰る日を待ち続けたい。」との声もある。

ＳＶＡは図書館を通じた支援を続けながら、「難民問題を日本に発信し続けること、難民問題を実際に見て、考えてもらうこと。」を取り組みたいとしている。（講演レジュメより要約。文責：事務局）

招聘研修スタッフのプロフィール

タイ（シーカー・アジア財団）

マーリニー・チャムナーンハット　さん（女性、ニックネーム・ターイ）
スアンプルー保育園　年少クラス（3 歳児）担当

ピクン・プラーニースワナンクン　さん（女性、ニックネーム・ノン）
クロントイ図書館

同行通訳　松尾久美さん（ＳＶＡタイランドスタッフ）

ラオス（シャンティ国際ボランティア会ラオス事務所）

プッタナリー・タムマミサイ　さん（女性、ニックネーム・オイ）
学校教育支援事業課　事業スタッフ

アレクサイ・パムアン　さん（男性、ニックネーム・アレック）
図書館事業課　事業スタッフ

同行通訳：八木沢克昌さん（シャンティ国際ボランティア会　アジア地域ディレクター）